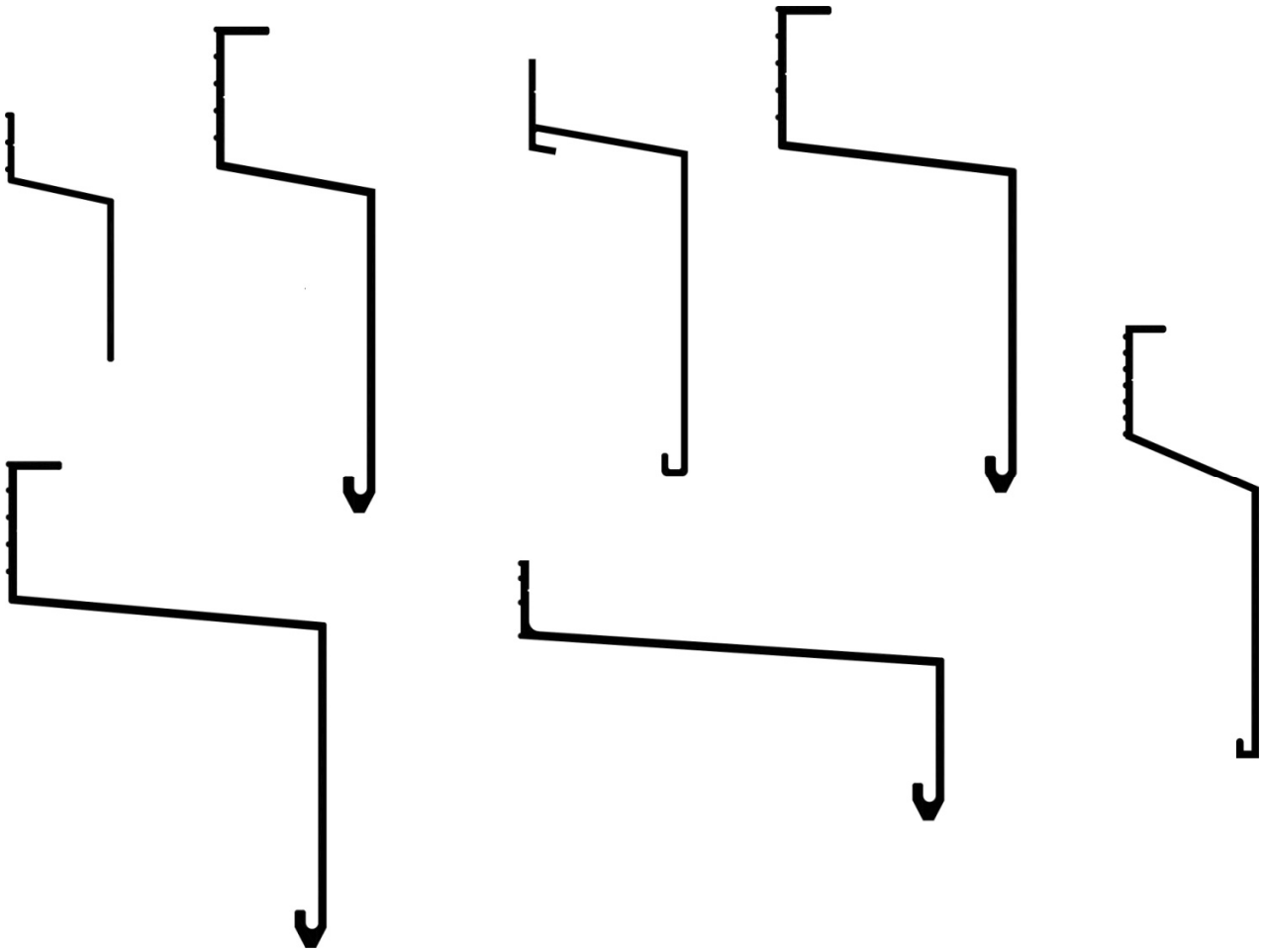
アルミ水切（防水端末保護）
施工手順書

OHシリーズ

Ver3.2023.02



白水興産株式会社

アルミ水切(防水端末保護用)施工の事前打ち合わせの注意点

（1）水切取り付け面の調整

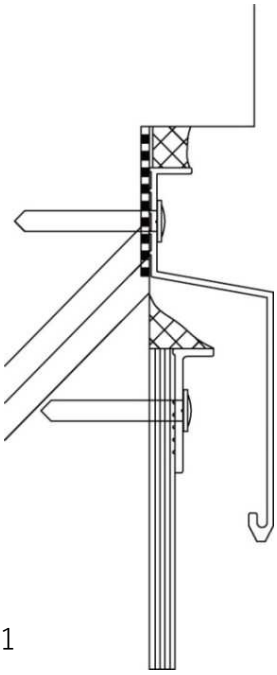
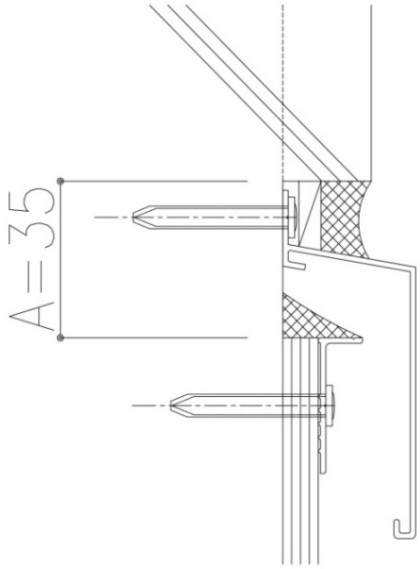


図1-1

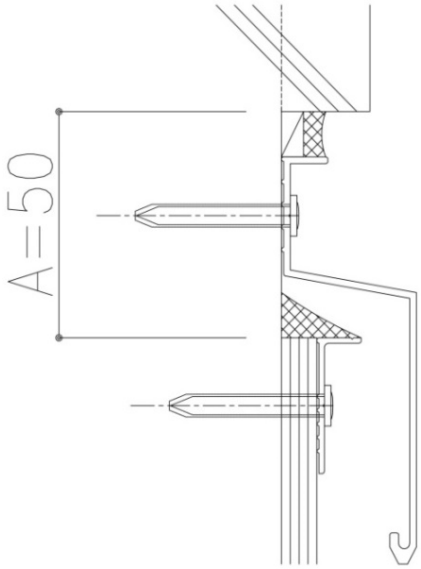
▬▬▬ で示した水切の取付け面は
平滑に仕上げてあることを確認してください。
平滑でない場合は現場にてモルタル仕上げしてもらう。

（2）防水端部の位置確認



Fタイプ

図1-2　OH-30F（ A寸法=35）



Kタイプ

図1-3　OH-30K （A寸法=50）

・水切の納まりはＦタイプとＫタイプがある為、A寸法は水切の形状に合わせてください。

・又、A寸法が大きくならないように注意してください。

アルミ水切(防水端末保護用)施工の事前打ち合わせの注意点

（3）面取り位置の確認※アスファルト防水の場合は必須

アスファルト防水のコーナー部は面取りをするので(図2-1参照)、水切取り付け部を図2-2のように水切の取付け面を前頁A寸法分確保してもらう必要があります。
事前打ち合わせで確認しておくポイントです。

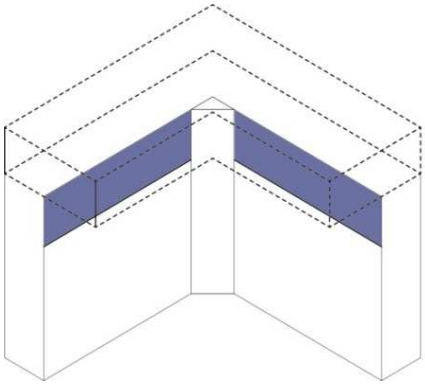


図2-1

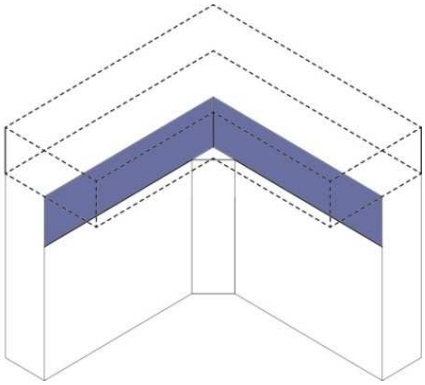


図2-2

（4）アゴ（欠込み）がない場合の納まり

・改修工事等でどうしても振動音や粉塵が出せず、斫り込みが出来ない部分に水切を取り付ける場合は、設計者や施工会社と協議してください。

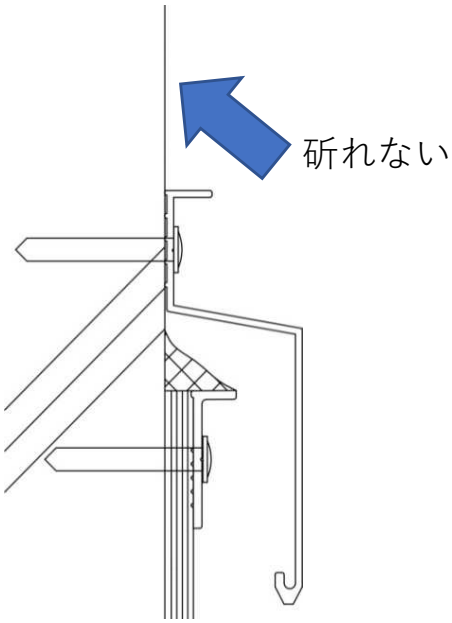


図2-3

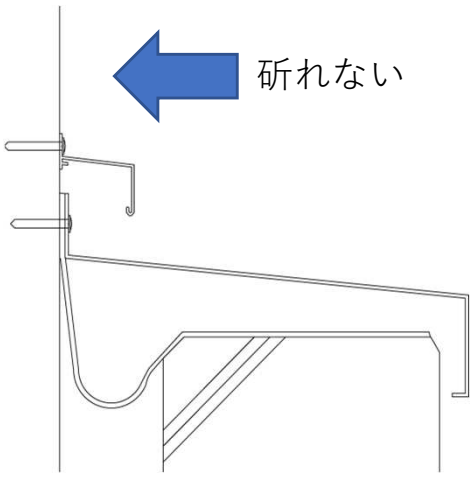


図2-4

アルミ水切取付時の注意点

（1）取り付けは必ずコーナー部からおこなってください。

（2）固定方法

下地材	アンカー用下地穴		白水興産 推奨アンカー
	径	深さ	
コンクリート	5.0	40	N5×35
ALC	6.0	40	B-F6

※ALCの削孔は穴径が大きくなるため、ハンマードリルを使用しないでください。
　下穴が大きくなるとアンカー耐力が低下します。
※ジョイントは熱膨張などの変形を考慮して隙間を5mm以上あけてください。

（3）固定間隔(ピッチ)　本体定尺L＝2000

		@300以内	@350以内	@400以内	@450以内
1本あたりの穴数	端部30	8穴(@378)	7穴(@324)	6穴(@388)	6穴(@388)
	端部50	8穴(@272)	7穴(@317)	6穴(@380)	6穴(@380)
	端部100	7穴(@300)	7穴(@300)	6穴(@360)	5穴(@450)

※当社の標準寸法は端部50mm、間隔380mmとします。
※固定間隔は現場管理者に確認してください。
　風圧の影響が大きい場合は、強度計算による固定間隔とします。
※()内の寸法は、均等とした場合の実質ピッチ

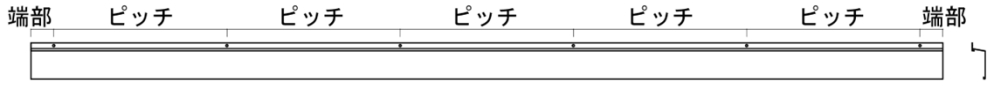
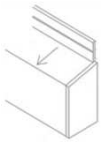


図3-1

（4）その他
・コーナー材は、金属専用の接着剤を使用し接着で組み立てます。
・エンドキャップは、製品を取り付ける立ち位置から見た「右」と「左」があります。
・シーリング材を塗布して接着で取り付けしてください。

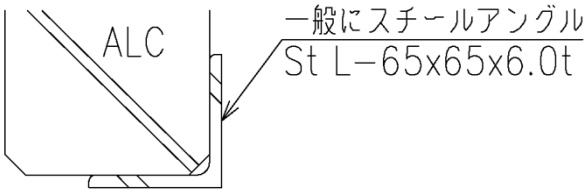
図3-2



←エンドキャップ右

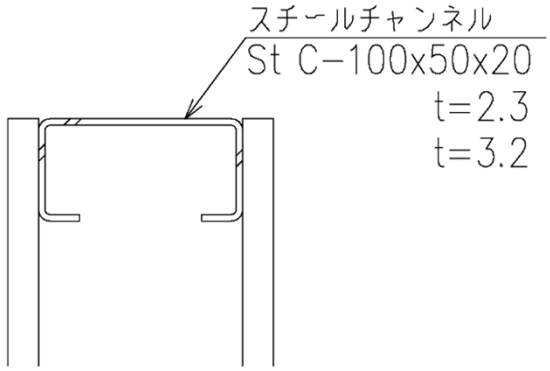
注意事項
・下穴の削孔後は清掃を行い切粉を除去してください。
・ねじ類はステンレス製をお勧めします。
・樹脂プラグとねじが一体でないものは、樹脂プラグを下地材に打込んだ後、ねじを締め込んでください。

下地がスチールの時の取付ねじの選定について



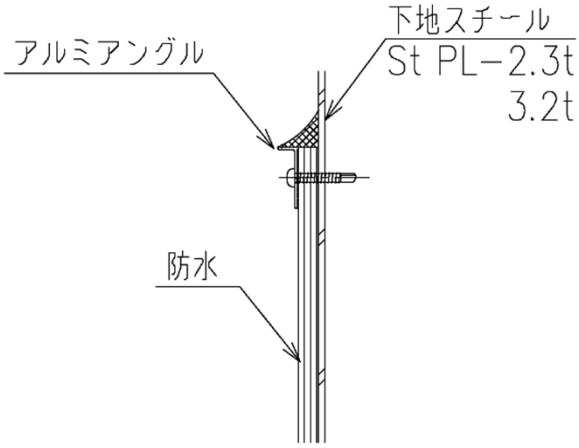
※t=6㎜スチールアングルに下端笠木、天端笠木を取り付ける場合NB-19(ヘックス六角ドリルねじ６×３５ユニクロ)を使用する。

※ユニクロにする理由はt=6㎜スチールアングルに対しては負けてしまうのでユニクロ(鉄)ビスを使用する。



スチールチャンネルt=2.3、3.2の場合
笠木取付の時

・B-540H　SUSテックスドリルねじ(六角)使用
・B-535　　SUSテックスドリルねじ(なべ)使用



アングルをスチール下地t=2.3、3.2に取付ける場合

・B-535　　SUSテックスドリルねじ(なべ)使用

※下地スチールがt=3.2を超える時はユニクロ(鉄)ビスを推奨